

キャンピング KYOTO

編集・発行 京都府キャンプ協会

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2 京都YMCA三条本館内

TEL: 075-255-4709 FAX: 075-255-2087

E-mail: kyoto@camping.or.jp URL <http://kyoto.camping.or.jp>

2018/5
Vol. 70

季節はすっかり春になり、新年度を生き生きと過ごされている方、慌ただしく過ごされている方、さまざまいらっしゃると思います。

事務局では、2018年度も会員の皆さんにとって豊かな学び、活動へとつながるよう、運営委員の皆さんとともに計画してまいります。6月の総会と例会、8月の例会の案内を中心に、これまでの活動の報告もぜひご覧ください。

2018年度 総会

6月23日(土) 11時より、京都YMCA三条本館にて2018年度総会を開催いたします。京都府キャンプ協会正会員にご登録の方は別紙、総会案内をご覧ください。



ワンポイントレッスン

自然の中での写真撮影術

デジタルカメラが普及し、一人一台カメラをもつ時代になりました。私たちは大自然を身近に感じられる場所で活動することが多いので、きれいな自然の写真や、自然を背景にそこで活動する人を撮影される方が多くいらっしゃると思います。

そこで今回は、デジタルカメラで写真を撮る際のポイントをわかりやすくレクチャーしてもらい、素人でもできるプロの技を伝授していただきます。

日程 2018年6月23日(土) 13:00~14:30
場所 京都YMCA三条本館(京都市中京区三条通柳馬場角)
講師 北川尋昭さん
(プロカメラマン・京都あざらし堂/北川(株)・YMCAリーダーOB)
参加費 500円
定員 50名
持ち物 筆記用具、(お持ちの方は)デジタルカメラ
申込み 事務局まで名前・電話番号・所属をご連絡ください。
申込み切 2018年6月20日(水)



びわ湖でカヌー体験

日本一大きな湖、琵琶湖でカヌーに乗る体験会です。主に初心者に向けての内容ですが、経験者も大歓迎です。初心者の方には、パドルの扱い方、乗り降りの際の注意事項など丁寧にお伝えします。オープンデッキのカナディアンカヌー、一人乗りのカヤック、番外編としてスタンドアップタイプのものもありますので、興味や経験に合わせて選んで、お楽しみください。親子でもご参加いただけます。ただし、お子様だけの参加はご遠慮ください。

日程 2018年8月13日(土) 10:00~13:30
場所 京都YMCAサバエ教育キャンプ場
(滋賀県近江八幡市佐波江町字北中島1)
参加費 3,500円(中学生以上)、
1,500円(小学生)、1,000円(3歳以上)
定員 30名
※詳細は案内をご覧ください。



予告

11月11日(日)に熱気球をテーマにした例会を計画中です。熱気球の準備から乗船、撤収までの流れを体験を通して学べる貴重な機会となります。興味のある方はぜひご予約ください。詳細は次号にて。

お問い合わせ・お申込み

京都府キャンプ協会事務局まで

◆E-mail: kyoto@camping.or.jp

◆FAX: 075-255-2087

◆電話: 075-255-4709



京都府キャンプ協会の

フェイスブック 始めました

講習会開催のお知らせや報告など掲載していきます。

<https://ja-jp.facebook.com/campingkyoto/>



4回目の開催となった葉っぱのクラフト。今回は、シュロの「バツタ」、紙ひもの「指ハブ」と「カエル」を作りました。確実にモノにしようと、何度も繰り返し作られたり一工程ごとにデジカ



メで写真を撮られたりするなど、皆さん一生懸命に取り組んでいただきました。わずか3時間余りで完成度の高いリアルな小動物たちが完成し、参加者のセンスの良さが光っていました。



報告 塚原 誠一

京都府キャンプ協会では、東日本大震災後の2012年から、毎年継続してキャンプスキルから考える減災プログラムを開催しております。キャンプとは、電気、ガス、水道といったライフラインが無い、あるいは使用が制限された環境で、生活する、活動すること、そんな中で環境を工夫してゆくことでもあります。ですから、キャンプを楽しむ私たちにとって、災害に備えるということは、我々が常に行っていることの延長線上にあるからに、他なりません。



備蓄といっても、それは、キャンプ用の電池や食料、燃料を3~7日分用意しておくことと、代わりはありませんし、準備をしておけば、どこか

で災害が起これば支援物資として提供することも出来るわけです。また、自身が被災した場合は、自助から共助への発信ができる、救助を待つだけの立場ではなく、自立した現場の一人として、アクションを始めて行ける原動力となることでしょう。発災時、自分の職場から、学校から、立ち寄り先から、公共交通機関を使わずに帰宅するルートを考える。徒歩で帰宅するまでの行動食や飲料水を準備しておく。常にライトや笛を携帯する、といったゼロ次元の備えの話から、備蓄や冷えを遮断する方法、ペットボトルを食器にして、いわゆる保存食・非常食の試食。ロープワークの応用で、ロープ穴の無いシートに穴を開けずにロープをフィックする方法まで、実習も含めて学んでいただきました。

報告 船越 義正

前夜からの雨がまだ上がり切らない中、新緑の友愛の丘キャンプ場で4月例会「竹の子掘りと野外料理」がありました。朝10時、予定通り参加者とスタッフあわせて12名で始まりました。まずは友愛の丘職員の濱野が、友愛の丘に生えているタケの種類やタケノコについて、そして掘り方のコツを伝授してから、森の中へ行きました。今回はモウソウチクのタケノコを掘りました。今年は豊作のようで、次々にタケノコがみつき、おとなも子どもも夢中になってタケノコ掘りに挑戦しました。次は料理です。花背山の家の飯田先生に用意していただいたレシピは3種類。タケノコのホイル焼き、若竹煮、そして定番タケノコご飯です。親子を中心に3グループで取り組みました。途

中で野生のミツバも採集し、出来上がり。おいしくいただいて、友愛の丘にもおすそ分けし、無事終了しました。最後のふり返りでは、タケノコ掘り初体験だったとか、また体験者もタケノコの掘り方のコツを今回知ることができたとの発言があり、満足していただけたようでした。次回はぜひ竹の食器づくりや竹ご飯にも挑戦したいですね。みなさまありがとうございました。 報告 濱野 一彦

